



ラジオ・リスナーの軌跡

会員 柳田 恭兵 (66期)

はじめに

「趣味はラジオを聴くこと(と野球)です」。ここ数年、そのように答えるようにしている(なお、野球の方は小・中・高・大・院でプレーし、そして現在「東京ローヤーズ」に所属している)。

カーラジオでしか……という方も多いだろうが、ラジオ好きは意外という印象である。しかし、「隠れリスナー」が多く、表明してはじめて同志であると知ることも多い。

ラジオを語るにはまだまだ知識・経験が浅く、ラジオ好きを公言するのはおこがましいが、どうか大目にみていただきたい。

ラジオと私

本格的な出逢いは、小学5年生のころ。1つ年上の兄の影響で、主に深夜のAM放送を聴きはじめた。幼いころの兄との記憶は、ラジオとともにあったといっても過言ではない。毎週、音楽のランキング番組で予想対決をしたり、兄のラジオ関連雑誌を読ませてもらったり、ミレニアムの瞬間も一緒にラジオ番組を聴いていた。

昔のラジオの思い出は、ノイズとの戦いであった。午前4時に目覚ましをセットして、布団の中でノイズ(と眠気)と戦いながら、パーソナリティの声に耳を傾けていた。埼玉育ちの私は、東海・関西の番組を聴きたいがために、アンテナを様々な方向に動かしながら、電波と戯れていた。そのような状況を打破すべく、小学校6年生の誕生日、秋葉原で、父から1万円以上するラジオ(写真左)を買ってもらったが、ノイズには勝てなかった。

高校～大学院時代におけるラジオは(王道であるが)試験勉強の友であった。集中時は邪魔をせず、休憩時には気分転換となってくれる。

また、ラジオは隙間時間の友でもある。大学通学時の電車内で、MDに録音した番組を聴き、他の乗客には気づかれぬように笑っていたこともしばしばあった。入浴時にはラジオをかけた湯船でぼうっとするのが心地よい。

ちなみに、好きなラジオの放送局はTBSラジオとNACK5、番組は「JUNK」(と終了したが「ROCKETMAN SHOW」)、パーソナリティはタレントの伊集院光氏、ハガキ職人はガラスのハート氏である。

現在～おすすめの聴き方

① スマートフォンで—インターネットラジオ

現在、自宅にはTVがない。スマートフォンに「radiko.jp」のアプリをインストールし、朝の支度時や就寝時、また休日の昼下がりに、クリアな音でラジオ番組を聴いている。

radiko.jpはPCでも聴くことができ、さらに全国のラジオ放送を聴ける「radiko.jp プレミアム」が登場した(有料)。なお、auでは、全国のFMラジオ放送を聴けるサービス「LISMO WAVE」が存在する(有料)。

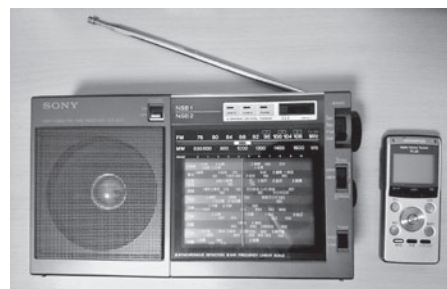
② ラジオ録音機

執務中のためリアルタイムでは聴けないニュース番組や、睡眠時間確保のためリアルタイムで聴いてはいけない深夜番組を、ラジオ録音機(写真右)で予約録音し、デジタルオーディオプレーヤーに取り込んで聴いている。再生スピードも変えられ、忙しい方にも向いている。

今年、関東のAMがFMで聴ける

2015年、関東広域AMラジオ3社(TBSラジオ、文化放送、ニッポン放送)がFM補完中継局を開設し、AMラジオ放送がFMでも聴けるようになる。

将来的には、様々なノイズにもかき消されず、全国のローカル番組が自由に聴ければ……と願ってやまない。



昔の愛機 ICF-EX5 (左) と、現在の愛機 PJ-20 (右)